

オープンソースモデルを導入したインタラクティブな小説サービス

～新たなサービスがユーザーに与える影響～

松山大学経営学部経営学科情報コース 4年

石田 実暉 Mitsuki ISHIDA

・はじめに

小説という文化について現代では、紙媒体ではなくスマートフォンで電子書籍を楽しんでおり、漫画が好きな人もスマートフォン上で楽しんでいる。この文化は、楽しむ形が変化したがる現代でも多くの人が楽しんでいるようだ。せっかく紙媒体ではない小説があるのだから何か面白いことができないうまいかと考えた。本研究では、加筆や修正が可能で、二次創作作品を全面的に許可した小説サービスを提供し、その中でユーザーの動きを見ていく。

・『BRANCH NOVELS』

本研究のサービスは、コンセプトとして「小説のインタラクティブ化を図る」というものだ。読者同士のコミュニケーションはもちろんだが、作者ともつながることができる。この目的を達成するためにこれから開発していくサービスを、「オープンソース型小説サービス」と呼ぶことにする。オープンソースの考え方を小説に当てはめると、小説のテキストを公開し、利用規約に従う上で改変や再配布を許可したものとなる。

そんな私たちの考える小説サービスの特徴は、「派生作品(二次創作)の執筆」である。サービス名にある『BRANCH NOVELS』は、派生作品によって物語が枝分かれする様子から、この名前を付けた。派生作品は本文だ

けでなく、挿絵や漫画化もできるようにしたい。

二次創作ができる機能として、「分岐機能」と「統合機能」という2つの機能を挙げる。

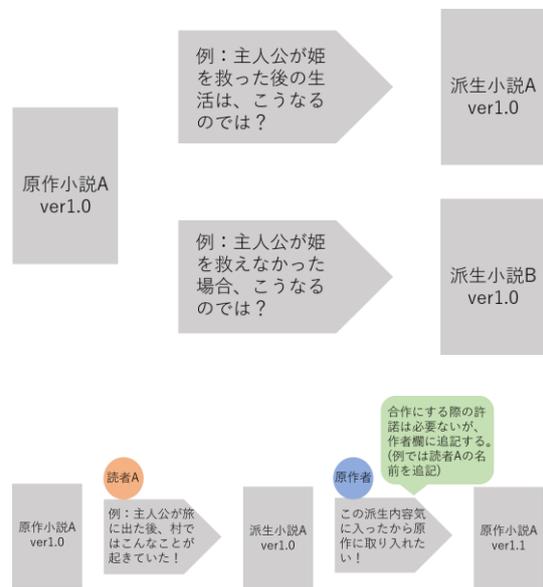


図. 分岐機能(上)と統合機能(下)

以上のような特徴・機能を搭載し、利用上のルールを明記した『BRANCH NOVELS』を、技術と企画の面から開発を進めていきたい。

・技術と企画

ここからは『BRANCH NOVELS』を実装するための技術と企画を見ていきたい。

今回の研究ではオープンウィキ作成ツールである GROWI を使用した。

まずは技術だ。GROWI のセットアップでは、「Hyper-V マネージャー」を用いて仮

想マシンで CentOS 8 をインストールし、Linux のコマンド入力で Docker を導入し、レンタルサーバ「ConoHa」でサーバを構築した。

セットアップが完了したら、サービスの Web デザインを行う。「小説執筆・一覧」というページを作り、執筆・閲覧機能の実装に取り掛かる。執筆は、GROWI の機能を利用した。小説タイトルを入力すると、執筆画面とプレビュー画面が開かれる。利便性の向上のためテンプレートを作り、誰でも執筆できるように使い方を説明した。派生小説の書き方も記述している。閲覧機能は「¥\$lsx()」とソースコードに記述することで、一覧として現れる。その後は利用規約やお知らせなどのページを作成する。

次は企画だ。イベントは、いいねの数で勝敗が決まる「月間人気小説決定戦」を開催する。また、サービスの利便性の向上として「使い方ガイド」を用意し、小説の書き方や画面の見方、小説を書く際の表現技法などをわかりやすく説明したページを作る。

最後に ConoHa に登録したドメイン名を利用してサイト URL の設定とログインできるアカウントの設定を行った。

## ・サービス提供

ここからは実際にサービスを提供し、ユーザーの行動を見る。企画したイベントを開催したため期間は 1 ヶ月とし、参加者は 50 人で対象は松山大学の在校生・教職員に限った。

結果ユーザーの約 4 割が小説に興味関心があるユーザーであり、執筆や閲覧の動きを見ることができた。約 3 割のユーザーが

ガイドに従い分岐機能や統合機能を使い派生小説の執筆をしていた。しかし、利用規約は必読を指示したが約 2 割のユーザーしか読んでいなかった。期間が終了したタイミングで、ユーザー全員にアンケートを実施した結果、良い機能として『BRANCH NOVELS』の特徴を挙げてくれたことや、悪い機能として様々な観点から改善点を受け、詳しい回答を得ることができた。

## ・まとめと課題

今後運営をしていくために、ユーザーの範囲を広げて更なるコミュニケーション活動を見たい。ただし利便性が低いため、ガイドに頼らなくていいような機能の実装をする必要がある。アンケートで得たフィードバックから、新企画の立案や要望に応えるサービス提供をしていくことも重要だ。

新規ユーザーの確保のために Twitter や Instagram などでの宣伝活動を行っていなかったため、積極的に行うことがこれからの課題だ。今後ビジネスとして活かすならばフリーミアム戦略やアイテムギフトによるマージンなどを用いて収益を確保したい。

サービスの PDCA サイクルを回しながらサービスの発展を見込んでいきたい。

## 参考文献

1. GROWI  
<https://growi.org/ja/>, (2022/1/6)
2. ITPRO PARTNERS 『フリーミアム戦略とは？成功事例から学ぶ勝利の方程式を紹介』  
<https://crowd.itpropartners.com/pieceblog/4091>, (2022/1/5)